

光明堂、旧本堂

1701年に建立された光明堂は、釈迦堂に代わられて移転する前まで、新勝寺の本堂であった。江戸中期の貴重な建物であり、現在、日本の重要文化財に指定されている。

堂内には、三種類の仏が祀られている。中央にいるのは、日本の密教で最高位の仏である大日如来、その両隣にいるのは、恐ろしい表情の不動明王と「愛に染まる」と書く愛染明王である。参拝客は全員に祈りを捧げるが、縁結びの仏とされている赤い6本腕の愛染明王は、特に信者が多い。愛染明王の前に蠟燭を灯し、良縁を願う参拝客もいる。

光明堂の構造は、江戸時代初期(1603年-1868年)に栄えた元禄時代(1688-1704)の文化を象徴している。屋根は入母屋造であり、瓦に朱漆が残っている。かつてはベランダ(回廊)があったが、現在の場所に移される際に撤去された。

建物の裏には、とても賢い仏が祀られている奥之院があり、毎年7月初めの祇園祭りのときに開扉される。